

# 第7回 全日本社会人バスケットボール選手権大会

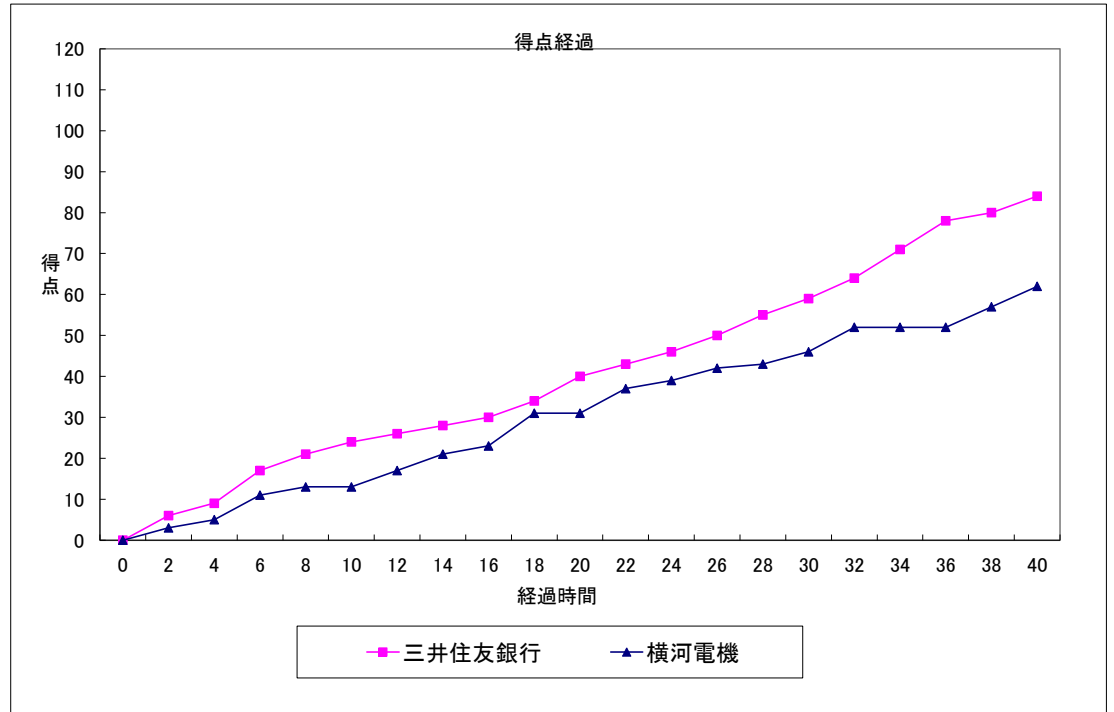
## 競技結果

実3・関東	三井住友銀行 84 <table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td rowspan="5" style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">}</td><td>24</td><td>-</td><td>13</td></tr> <tr><td>16</td><td>-</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>-</td><td>15</td></tr> <tr><td>25</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	}	24	-	13	16	-	18	19	-	15	25	-	16	-	-	-	実5・関東	62	横河電機	期日	2011年11月6日		
}			24	-	13																			
			16	-	18																			
			19	-	15																			
			25	-	16																			
	-	-	-																					
					試合	M14	コート	B2																
					会場	富山県西部体育センター																		
					主審	針生 淳男																		
					副審	高根 聡																		

連盟	25	26	実3・関東				連盟	33	34	実5・関東			
チーム名	三井住友銀行						チーム名	横河電機					
部長	森川郁彦						部長	伊東千明					
顧問							顧問	田中博行					
監督	中井敏昭						監督	奥山興祐					
H・コーチ							H・コーチ						
コーチ	黒木 健						コーチ	小納真良					
A・コーチ	北郷慎太郎						A・コーチ						
主務・副主務							主務・副主務	溝田浩志		麻生雅之			
マネジャー	光野孝俊						マネジャー						
トレーナー							トレーナー	高田裕史					

選手名	背番号	得点	3P	2P	FT	PF	選手名	背番号	得点	3P	2P	FT	PF
青木崇記	0	3	0	1	1	1	田ヶ谷 治	0	24	0	10	4	2
黒木 健	1						伊藤真人	1	0	0	0	0	0
岡部智博	2						小納真樹	3					
菊池 大	4						溝田浩志	4					
吉永光宏	13	0	0	0	0	0	梅田稔人	7	7	1	2	0	2
鈴木敏嵩	16	7	2	0	1	0	神崎 健	8					
西中大史	19	0	0	0	0	0	佐藤 岳	9					
井関慎平	21	7	1	1	2	1	小林一哉	13	0	0	0	0	0
原田修太	23						高木賢伸	15	2	0	1	0	1
阿藤康貴	27						張 威威	20					
大石雅史	28	8	2	1	0	0	山田純也	21	0	0	0	0	0
佐藤基一	31	11	1	2	4	3	浦中 旭	22	4	1	0	1	2
田嶋正幸	32	6	0	2	2	0	梶原 剛	24	13	3	2	0	5
木村 理	34	16	0	8	0	3	能登裕介	28	2	0	0	2	4
中島悠太	37						笹 義仁	33	10	0	5	0	3
新垣昌彦	51						小西秀明	52					
清水 洋	81	0	0	0	0	0	飯島章仁	77					
小松昌弘	92	26	2	9	2	2							
合計		84	8	24	12	10	合計		62	5	20	7	19

記録:富山県バスケットボール協会



### 戦評

第1Q マンツーマンディフェンスにてスタート。三井住友銀行は序盤は#34の活躍で流れをつかんでいった。一方、横河電機は序盤#0のインサイド、カットインからのシュートで食下がる。中盤に三井住友銀行#92の連続インサイドシュートが決まり、20-13に点差を広げる。たまた横河電機がT・O。T・O後横河電機もオールコートディフェンスで食下がるが三井住友銀行も慌てず、24-13で終了。

第2Q 両チーム共マンツーマンディフェンスにてスタート。三井住友銀行#34のマークがきつくなり第1Qの様に点が入らない。横河電機はディフェンスで流れをつかみ、#24の3点シュート等で28-23と点差を縮める。たまた三井住友銀行がT・O。T・O後は落ち着きに戻ったが、#34、#92のコンペネーションからのシュート、#33のインサイドシュートで点を重ね、相手に流れを持って行かせない。横河電機は#0のインサイド、アウトサイドシュートを中心にしていくがなかなか点が縮まらない。40-31三井住友銀行リードで第2Q終了。

第3Q 序盤は両チーム共パスミスをしてしまい点が入らない時間が続く。三井住友銀行はインサイドを中心に横河電機は3点シュートを中心に攻防していくが、インサイドにて確実に点を重ねていく三井住友銀行が点差を広げていく。そのまま59-46三井住友銀行リードで終了。

第4Q 横河電機はオールコートディフェンスで勝負をかける。しかし、三井住友銀行はリズムを崩さず逆に確実に点差を広げていく。疲れが見えた横河電機はパスミスを連発してしまう。最後まで、スピードが落ちなかった三井住友銀行が84-62で勝利を収めた。